

● 事前の準備（ヒコーキを作る）

*** ハサミやカッターは不要。15～20分程度で完成します。**

*** 準備品** ホワイトウイングスのキット。

接着剤（セルロース系の工作用のセメダインCやボンドが適している。）

自分で作るという工程がヒコーキへの思い入れや愛着を生み、ゲームへの参加意識を高めます。

* 手 順

1、型紙からパーツを丁寧に外す。

作業を楽しく進めるための援助者の演出

オリジナルヒコーキの提案！

色、模様などを入れることで“自分のヒコーキ”への愛着がわきます。

*** 援助者は、自分だけのヒコーキを作るように提案しましょう。**

型紙に、色鉛筆やマジックなどで各自で好きな色や模様を描きます。

型から抜く前に、色や模様をつけた方が作業がしやすくなります。

ヒコーキに名前をつける

各自のヒコーキに名前をつけさせることにより、さらに思い入れや参加意識が高まります。

2、本体（バルサ材）に翼を糊付けしていく

3、乾燥させて完成！

作業中のワンポイント

製作の進み具合が皆と同じようになるように気を配りましょう。

みんな同じように進んでいる（＝出来ている）という安心感から、参加意欲が高まります。

* 援助者は、型紙が上手くはずれなかったり、糊付けが上手くない利用者には気を配ります。必要であれば手伝いましょう。

4、テスト飛行を試みる。

まずは各自、自由に飛ばし、力加減など、飛ばす感覚を身に付けます。

ただし、安全に配慮して空間の確保や投げる方向を一定にしておきましょう。

慣れてきたら、次は目標を設け、グループで挑戦してみます。

（ 1 グループ、4～6名に分かれて行ないます。）

a、援助者は、着地ポイントを利用者と一緒に確認します。

富士山、ハワイ、月など着地ポイントに立ち、距離のイメージを伝えます。

b、利用者全員で「3,2,1、GO」のかけ声をかけます。

* 「GO！」で飛ばすという約束をします。

援助者が実際に飛ばしてみます。

ア、援助者は「飛ばすタイミングを見てください。」と言い、利用者を注目させます。

イ、サブリーダーと一緒に「3,2,1」の声を促します。

ウ、援助者は「GO！」の発声と同時にヒコーキを飛ばします。

c、グループずつ全員がスタートラインへ出て、「3,2,1」のかけ声と「GO」の合図で2回飛ばします。

d、着地したヒコーキの位置を全員で確認します。

e、グループを交代して同じように行ないます。

“言葉かけ”のワンポイント

着陸ポイント（距離）により、飛ばした力加減など、みんなが参考になるような情報を引き出します。より遠くへ飛ばそうという気持ちを高めるようなアドバイスします。

例：「○○さん、今度はもう少し上に向けて飛ばしてみましょうか。」

効果：より遠くへ飛ばそうという気持ちで上肢の運動を自然に高め、集中力・バランス感覚を養います。